

「地藏菩薩信仰型態の一例」

滋賀県野洲町大字辻町の子安地藏尊の場合

飯田尚現

滋賀県野洲郡野洲町大字辻町、浄土宗西徳寺の境外佛堂に地藏堂があつて、「子安地藏」と呼ぶ木像極彩色等身大の地藏菩薩を安置している。

(一)

通称「辻の地藏さん」と呼ばれているもので、広く郡内は勿論、湖東、湖南、大津に至る迄も慕われている。その参詣者は妊婦の安産を祈願するものが最も多く、中には子のないものが子を授かる事を祈り、子が多いいし、これ以上は過ぎるとするものは、之を他家へ生まれさせと祈願する。又産婦の乳汁が充つる故にと祈り、發育思わしくない子、夜泣きする子を健全な乳と祈るなど、その願いは多角的ではあるが、何れも「靈驗は極めて灼かなり」と喧伝せられている。

特に年中行事の一月九、十、八月は二十三、二十四兩日の御雨罪には、参詣者の数凡そ一日五十人を数えるし、(因みに平常は一日一人乃至二人)地元西徳寺檀中では一月九日、八月二十三日の薄暮に堂守が施主となつて、御雨罪法要を営む。これには檀中より参詣して、堂守の供養を受けるのであるが、参詣者は決して既婚の女性に限られる。——こうした不文律の因習

き「子安地藏」の信仰として注目される一つである。

今この尊が信仰されている型態をほんの一例として認ためるのであるが、当然必要と思うものに、この菩薩の由來と信仰されている地域の分布図が挙げられるが紙数の關係でこれを省略し、たゞ信仰されている地域分布図のみ簡単に記して本題に入り度い。

最近四月以降（昭和三十年四月一日—八月三十一日迄）の参詣者總数を地区的に眺めてみると、

野洲郡	四六%	近江八幡市	一七%	蒲生郡	一〇%	甲賀郡	六%
京阪津	五%	栗太郡	四%	草津	四%	八日市市その他	八%

となり、当然地元野洲郡が他を抜いているが近辺市町からも決して少くなく、その信仰地域は野洲町を中心に滋賀県東南部を包容、その範囲はかなり広大なものを示す。そして京阪津の四%と共に堅田町一%の数字も決して輕視出来ないものがある。（尚、この項原稿には実数をもつて各市町村別に細かく、又里程の上からも統計したが、今省かざるを得ないので残念である。）

さて最近一ヶ月（昭和三十年八月）の参詣者を「参詣者名簿」より見てみると、

安産祈願者	四二%
礼詣り	三三%
子供が欲しい	七%
子供をあずかつてほしい	一、八%
乳が欲しい	一%

子供の健康祈願

その他

願意明示せず

二 %
〇、七 %

一、五 %

となつてゐる。しかしこの数字は大体八月一ヶ月間としてゐるものゝ名義の方で、月、日を明記してゐないので、正確な実数はつかめなかつたが大体堂守の方で指示してもらつた範囲によるもので、若しこれより数は下廻ることがあつても増えることはない。そしてその数も決して大差はないものと思ふ。

次に表われた数字を元にしてその一々についてその信仰を述べてみる。先ず安産祈願者を年令別に見、又それらは身寵つてから大体何ヶ月目位に参詣祈願するのを見ろと大体次の様な事が知られる。即ち、先の数字より、安産祈願者の内

二十二才未満

五 %

二十二才より二十五才迄

四六 %

二十六才より三十才迄

二八 %

三十一才より三十五才迄

一三 %

三十六才以上

四 %

不明

四 %

となり、身寵つてからの月数を見ると

四ヶ月未満 八 %

五ヶ月 三三 %

六ヶ月 一三 %

七ヶ月 一二 %

八ヶ月 一三 %

九ヶ月 一二 %

十ヶ月 八 %

不明 一 %

となる。

この表に見てみると、これらの女性が祈願に参詣する月数は大体一定している様である。ただ妊娠して四ヶ月目迄に参詣するのが八%なのに対して、五ヶ月になると忽ち三三%にと激増する。そして六ヶ月以上臨月迄は大体平均した数字が出てゐるが、これは単に身重の身体では大儀だと云うので、外出し易い時期にと云う單なる理由によるもので、信仰的根拠は全くないものと思ふ。

又、参詣者の年令であるが、数字に現われたのを見てわかる様に二十才から二十五才迄の女性が四六%で全体の約半数を占め、次いで二十六才から三十才迄の二十八%、そして三十才を過ぎると一三%、三十六才以上に至っては四%と激減する様に、その過半が初産者で占める。へばつきり初産者の数を知る事が出来ないので残念である。

次に礼詣りが三三%を数えるが、この内には「お授りする事が出来た」と云うのが一人含まれてゐる。因みにこの種の「地藏尊よりお授りした」と云う礼詣りは一年に約十人位ある（堂守の話）と云う。

そして参詣者の三番目に多いのは、云わゆる「子供が欲しい」と祈願するもので八月中に七%を記録している。これを年令的に見ると、二十八才以上の女性が七八%、二十七才の女性が五%、二十五才以下が十七%となっており、安産祈願者とは全く相反する結果を生み、何か焦るらしい深刻なものが現うけられる。

これに対して「もうこれ以上は要らない、生まれる様ならこれを他家へと」、云わゆる「あずかって欲しい」と云うのが一八%見られ、その年令も三十八才、三十七才、三十四才（年令

不明四〇%一等と句が現代社会への抗議に似た心に迫るものを感じさせられる様でもある。

この他には子供の健全なれと祈るものが、全体の二%、授乳祈願が一%、その他〇・七%、願意不明一二・五%となっており、子供の健康を祈るものは、それぞれの病名を挙げてゐるし、又その他ではいわゆる祈禱で、大人の病気を直せの類である。そして願意不明は名筵にその旨を書いてないものであるが、恐らく名筵の主旨からしてこれは或いは礼詣りかも知れない。何故ならこの名筵は単に祈禱に必要な事項をメモするだけのものであるからで、へ礼詣りの類にもこの様なのは見受けられた。たゞ礼詣りはその項に^(礼)と明示するが、この場合はこれを明示せず単に住所、氏名へ年令さえも記してゐずのみだからである。

大体以上信仰の状態として参詣者の分布を記したが、これらの数字は前記「八月一ヶ月」の参詣者の数によるものである。

(三)

安産祈願者の場合、願者は祈禱師を通じて「住所」「氏名」「年令」及び「妊娠してから月数」を地藏尊に告げて無事安産をと祈願するのである。この時祈禱師は読聖中に御願なるものによつて出産日と、男、女の何れかを知り、読聖、祈禱終つて祈願者にその出産日を何日頃、男、女の何れかを告げる。祈願者は告げられた出産日を控えて男、女のいずれかによつて生まれ出する嬰兒のへ例えば必要な衣服等の用意のためにと努めるのである。そして願者に芋を一条与え、これを腹帯と一緒に結んでいなさい、と云い、又洗米を少量与え、胎動、前兆の時これを食うと安産出来ると云う。

これに依つて無事に安産した時、人によつては「御礼詣り」をする。地藏尊に何月何日無事

男へ女へ兒を出産「有難慶う御座いました」と礼辭を述べ、重ねて「今後、益々母子共健かであれ」と追願する。

次いで子のないものが子を授けようとし、子が多すぎるとするものは、これを他家へと祈願するのがある。今その一例を挙げる。

「結婚して七年を至た三才になる女性。どうしたものか、未だ子室に恵まれないがどうかして子供が欲しい。出来る事ならお授け願ひ度い。お授け下さい。」と祈願する。

すると、祈禱師は御願によつて「出来る」「出来ない」を知り、「出来る」となれば、みくじによつて「大体何年の何月頃に身籠ります」と云う。又これとは反対に、

「現在子供は五人あるが、そのいずれもが少年で、今でも一番年下の子には手がはなせない状態。その上細々とした生計で現在苦しい極みにいる。もしこの上に出来るとなれば子供と共に、苦労の上の苦であるから、どうかもうこれだけで出来る様になつてみたい。もしすでに授けてゐるのならどうかこれを、欲しい人にお授け下さる様にと。」と、

そして子の欲しいものは、あかけると云うものがあつて祈願すると授かると云うし、又反対に、欲しいと祈願するものがあつてあかかつて欲しいとたのむと、その子は出来ないと云う。

この他に、発育思わしくない子、夜泣きする子の健全なれと祈る等々その範囲はきわめて広い。又産婦の乳汁が不足だとこれが充つる様にと祈願し、地藏尊前へ供えられている茶水をのむと忽ち乳汁は充足すると云う。

安産祈願者の場合その出産日と男女何れかを祈禱師は願者に告げるが、これが不思議と当るからその靈驗灼なりと云う。又子供を授けようとするものと、あすけようとするものの場合、成程願意は切々として心に迫るものもあるが、一面要を得た語である。これら授けようとするものと、あすけようとするものとは、その願者の云うところの意味は全く相反するものだが、元来地藏菩薩は妊孕、出産、育児等を司るものと信じられているだから、その祈願者の希望によつては、出産を欲しないものから之を取り、子宝を欲しがっているものにこれを融通すること、当然出来るものだと思はる考え方であるが、これが又、万一成就されると、益々もつて靈驗灼である、となるのである。

然し、田舎町とは云え、二十才代の女性と云えば殆んどが高等学校を卒えている現在である。自分では一角のインテリを以て仕する現在青年の、一番とりつきにくい宗教、就中佛教的な祈禱に何故すがらうとするのか。單に舅、姑の勧めだけではない程に思われる。その奥には眞に迫るもの、——命をかけての「産」に連なる、所謂「溺る、者は藁をもつかむ」の心理が大きく作用しているのではなからうか。

こゝに現世利益の滅びざる強さがあり、凡ゆる新興宗教と一脈相通するもののあるのを感じざるを得ないけれども、これが正信と民間信仰の相違であることを思えば、また一沫の微笑を禁ぜざるを得ないのである。